

野菜畑作生産情報 第3号

平成30年6月20日
青森県「攻めの農林水産業」推進本部



◎小麦の刈取適期は7月上～中旬の見込みです。適期収穫に努めましょう。
◎にんにくの生育は順調で、収穫期は平年よりやや早まる見込みです。収穫及び乾燥作業の準備を計画的に行い、適期収穫に努めましょう。

畠作物

1 小麦

(1) 生育状況

- ア 開花期は、ネバリゴシ、キタカミコムギとも平年並から5日程度早かった。
イ 稈長、穂長は平年並からやや下回り、穂数は平年を下回っている。

表－1 小麦の出穂期、開花期

場 所	年次	ネバリゴシ		キタカミコムギ	
		出穂期 (月日)	開花期 (月日)	出穂期 (月日)	開花期 (月日)
農林総合研究所 (黒石市)	本 年	5/16 (早5日)	5/24 (早4日)	5/18 (早5日)	5/25 (早5日)
	平年差	5/21	5/28	5/23	5/30
	平年 前 年	5/20	5/24	5/22	5/26
野菜研究所 (六戸町)	本 年	5/17 (早4日)	5/26 (早4日)		
	平年差	5/21	5/30		
	平年 前 年	5/18	5/26		
つがる市 (木造町)	本 年	5/21 (遅1日)	5/28 (±0日)	5/20 (早1日)	5/29 (早1日)
	平年差	5/20	5/28	5/21	5/30
	平年 前 年	5/15	5/22	5/20	5/29
十和田市 (三本木)	本 年	5/21 (早1日)	5/26 (早5日)		
	平年差	5/22	5/31		
	平年 前 年	5/21	5/29		

注) ①農林総合研究所、野菜研究所が作況試験ほ、つがる市(木造)、十和田市(三本木)が生育観測ほの調査成績。

②平年値は、農林総合研究所の「ネバリゴシ」、「キタカミコムギ」が過去12か年、野菜研究所の「ネバリゴシ」が過去9か年(24年産(出芽不良)を除く)、つがる市(木造)と十和田市(三本木)の「ネバリゴシ」が過去16か年、つがる市(木造)の「キタカミコムギ」が過去22か年の平均値。

表－2 小麦の生育状況（本年は6月11日、平年は6月10日、前年は6月9日）

場 所	年次	ネバリゴシ			キタカミコムギ		
		稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本/m ²)	稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本/m ²)
農林総合 研究所 (黒石市)	本 年	71.9	7.6	350	78.6	8.3	255
	平年比	(96%)	(99%)	(86%)	(91%)	(97%)	(72%)
	平 年	74.6	7.7	408	86.6	8.6	352
野菜研究所 (六戸町)	前 年	68.9	6.9	382	83.7	8.6	281
	本 年	91.5	8.0	600			
	平年比	(97%)	(96%)	(84%)			
	平 年	94.0	8.3	718			
	前 年	89.5	8.0	644			

(2) 今後の農作業の留意点

ア 刈取準備

- (ア) 適期に刈取りできるようコンバインや乾燥調製施設を準備する。
 (イ) 効率的に収穫作業を行うため、ほ場の排水対策を徹底する。

イ 適期刈取

- (ア) 刈取適期は7月上～中旬頃の見込みである。穂数の少ないほ場では早まることも予想されるのでよく観察し、収穫が遅れないようにする。
 (イ) 刈取りは、ほ場毎の成熟状況を確認して、子実水分が30%以下（穂を手でもむと脱粒しやすく、子実が爪で割れにくい状態）になった頃をめどに行う。
 (ウ) 刈取りが早すぎると未熟粒が多くなり、遅すぎると黒かび粒や穂発芽の発生により品質が低下するので適期に収穫する。
 (エ) 倒伏や穂発芽した小麦は、仕分刈りを行い、未熟粒や被害粒が混入しないようにする。
 (オ) 赤かび病は、被害粒の混入割合が1万粒に4粒程度を超えると流通できなくなるので、収穫にあたっては、事前に赤かび病の発生状況を把握し、罹病粒混入が懸念されるほ場では、発生のないほ場と仕分けして、収穫・乾燥を行う。

表－3 積算温度による刈取適期の見込み

品種 地域	ネバリゴシ		キタカミコムギ		ゆきちから	
	出穂期	刈取適期	出穂期	刈取適期	出穂期	刈取適期
西北	5/21	7/7～13	5/20	7/10～15	-	-
中 南	5/16	7/4～10	5/18	7/9～14	5/17	7/6～7
東 青	-	-	5/25	7/15～19	-	-
上 北	5/19	7/8～15	-	-	-	-
三 八	5/22	7/11～17	-	-	-	-

注) ①出穂期以降の積算温度(ネバリゴシ：830～950°C、キタカミコムギ：900～1,000°C、ゆきちから：840～867°C)を基準に推定した目安で、それぞれ近傍のアメダス（西北は五所川原、中南は黒石、東青は青森、上北は十和田、三八は八戸）から計算した(6/14現在)。

②出穂期は、表－1 及び各地域からの聞き取りによる。

2 大豆

(1) 生育状況

降雨の影響により、は種作業が一部で遅れたところがあるものの、出芽は順調である。

表-4 大豆の出芽状況

場所	年次	は種期 (月日)	出芽期 (月日)
農林総合研究所 (黒石市)	本年 (平年差)	5/28 (遅3日)	6/6 (遅1日)
	平年	5/25	6/5
	前年	5/25	6/4
野菜研究所 (六戸町)	本年 (平年差)	5/15 (早1日)	5/26 (±0日)
	平年	5/16	5/26
	前年	5/16	5/23

注) ①品種：おおすず。

②農林総合研究所、野菜研究所の作況試験ほの調査成績。

③平年値は、農林総合研究所が過去13か年、野菜研究所が過去11か年の平均値。

(2) 今後の農作業の留意点

- ア 中耕・培土は、1回目は本葉2～3枚の展開期に初生葉のつけ根まで、2回目は本葉5～6枚の展開期に第1本葉のつけ根まで土寄せする。
- イ アブラムシ類や食葉性害虫の適期防除に努める。
- ウ 長雨に備え、明きよを設置するなど排水対策を徹底する。

野 菜

1 にんにく

(1) 生育状況

ア 地上部、地下部の生育とも、平年並から上回っており、順調である。

イ 収穫期は、平年並からやや早まると見込まれる。

ウ 病害虫は、春腐病、さび病の発生が散見される。

表－5 にんにくの生育状況

場 所	年次	草 丈 (cm)	葉 数 (枚)	茎 径 (mm)	球 径 (mm)	球 重 (g)	りん片 分化期 (月 日)	収穫期 (月 日)
野菜研究所 (六戸町)	本年 (平年比)	94.6 (96%)	12.6 (100%)	19.5 (98%)	62.7 (111%)	95.3 (122%)	4/18 (4日早)	— (—)
	平年	98.3	12.6	20.0	56.4	77.8	4/22	7/ 3
	前年	100.4	11.9	19.8	55.6	73.6	4/17	6/28
藤崎町 (福島)	本年 (平年比)	90.6 (110%)	8.4 (101%)	20.5 (101%)	55.1 (108%)	79.3 (124%)	4/24 (5日早)	— (—)
	平年	82.7	8.3	20.3	51.1	64.2	4/29	7/ 2
	前年	89.4	9.0	18.5	52.1	81.7	4/26	7/ 2
七戸町 (楳林)	本年 (平年比)	82.2 (99%)	7.7 (93%)	21.8 (105%)	59.8 (112%)	84.1 (120%)	4/23 (1日早)	— (—)
	平年	82.7	8.3	20.8	53.5	70.2	4/24	6/28
	前年	83.2	7.8	20.5	60.5	84.3	4/21	6/23
田子町 (田子)	本年 (平年比)	81.2 (100%)	8.7 (102%)	19.3 (98%)	57.9 (105%)	73.5 (101%)	4/20 (3日早)	— (—)
	平年	81.2	8.5	19.6	55.0	72.6	4/23	6/28
	前年	76.4	8.2	17.9	50.9	58.8	4/18	6/26

注) ①平年：野菜研究所は平成22～29年の8か年の平均値。

藤崎町は平成9年～29年の21か年の平均値。

七戸町は平成8年～29年（平成25年を除く）の21か年の平均値。

田子町は平成8年～29年の22か年の平均値。

②種子：野菜研究所は福地ホワイト（13～14g）。藤崎町は福地ホワイト（13～15g）。

七戸町は白玉王（6～8g）。田子町は白玉王（8～10g）。

③葉数：野菜研究所は抽出葉数。藤崎町、七戸町、田子町は生葉数。

④調査日：本年は6月11日現在。平年は6月10日、前年は6月9日。

(2) 今後の農作業の留意点

ア 病害虫の適期防除

収穫時までに1枚でも多く生葉を残すことが球の肥大促進と割れ玉の発生軽減につながるため、最後まで病害虫防除を徹底する。

葉枯病、黄斑病は、収穫間際に一気に広がることがあるため、早期発見・早期防除に努める。

イ 適期収穫

収穫遅れとならないよう、盤茎部とりん片の尻部がほぼ水平となる時期に収穫できるよう、早めに試し掘りを行い肥大状況を確認する。

ウ イモグサレセンチュウの防除対策

被害の拡大を防止するため、機械等がほ場間を移動する際は、洗浄を徹底する。

イモグサレセンチュウの発生が確認されているほ場では、りん球への進入を抑制するため、①早期収穫、②速やかな根切り、③根のほ場外への搬出と適正処分、④速やかな乾燥を行う。

なお、作付ほ場におけるイモグサレセンチュウの発生の有無については、種子用のにんにく20球程度を網袋に入れて1か月程度自然乾燥させた後、りん片の皮をむいて発根部付近の褐変や腐敗の有無を確認する。異常が見られた時は、指導機関に診断を依頼する。

エ 適正乾燥

(ア) 乾燥用の暖房機の温度設定は35°Cとし、にんにく付近の温度が高いと、煮え症状が発生しやすくなるので、38°C以上にならないよう管理する。

(イ) 乾燥の仕上がりは重量が7割程度に減少した頃を目安に、根部をナイフ等で削り、盤茎部に爪がたたないぐらいの硬さであることを確認する。

(ウ) 建築用水分計を活用する場合は、重量が7割程度に減少した時の盤茎部の水分測定値「10~15%」を乾燥仕上がりの目安とする。ただし、テンパリング乾燥の場合は、盤茎部の水分測定値と全体の水分状態の関係が通常乾燥とは異なることから、重量比による従来の判断方法と併用して総合的に判断する。詳細については指導機関に相談する。

オ 乾燥仕上がり後の管理

乾燥仕上がり後は、出荷や冷蔵庫への入庫までの期間に、湿気が戻らないようにシート等で湿気を遮断するほか、一時保管中の温度が高温にならないよう適正に管理する。

2 ながいも

(1) 生育状況

植付作業は、平年並の4月下旬に始まり、植付終わりも平年並の6月上旬となっている。

病害虫は、早植栽培でアブラムシ類が散見される。

(2) 今後の農作業の留意点

ア 追肥

追肥が遅れると収量や品質低下の原因となるので、開始時期は、つる長のほか、試し掘りにより新しいも長も確認して、適期に行う。

表－6 ながいもの追肥方法

	早植栽培（頂芽付1年子）	普通栽培	
追肥開始時期の目安	<ul style="list-style-type: none">・植付後60日前後 (6月下旬～7月上旬)・新しいも長は5cm前後・つる長は150cm前後	種いも：子いも	種いも：切いも
		<ul style="list-style-type: none">・植付後45～55日頃(7月中旬頃)	<ul style="list-style-type: none">・植付後55～65日頃(7月中下旬頃)
		<ul style="list-style-type: none">・つる長200～220cm(ネット8分目～ネット上部到達) ※低温年では、新しいも長を目安とする。	
追肥の間隔及び回数	<ul style="list-style-type: none">・6月下旬から8月上旬の間に、12～14日間隔で3回	<ul style="list-style-type: none">・7月中旬から8月中旬の間に、10日程度の間隔で3回	
1回当たりの追肥量	<ul style="list-style-type: none">・10a当たり窒素成分で5kg以内とする。		

※ ウイルスフリー種子を使用した場合や地力が高いほ場に作付けした場合は、1回当たりの追肥量を減らす。また、下位節からの側枝の発生が多く、生育が旺盛な場合は3回目の追肥量を減らす。

イ 病害虫の適期防除

葉渋病、炭そ病、ナガイモコガ、アブラムシ類の早期発見・早期防除に努める。

採種ほ場では、ウイルスの伝搬を防ぐため、10日程度の間隔でアブラムシ類の防除を徹底する。

表－7 アブラムシ類、ガモコガ及び葉渋病の発生時期

栽培法	植付時期	萌芽期	アブラムシ類		ガモコガ幼虫	葉渋病
			発生初め	発生盛期		
早植栽培	5／上	5／下	5／下	6／中～下	6／中	7／中
普通栽培	5／下	6／下	6／下	7／中	7／中	8／下

3 春夏にんじん（トンネル栽培）

（1）生育状況

- ア 生育は順調で、地上部は平年を上回っている。地下部は、根長が平年並で、根径、根重は上回っている。
 イ 病害虫は、ほとんど発生していない。

表－8 春夏にんじんの生育状況

場所	年次	は種期 (月日)	葉長 (cm)	葉数 (枚)	根長 (cm)	根径 (mm)	根重 (g)
六戸町 (下吉田)	本年 (平年) 平年 前年	3/16 平年同 3/16 3/13	71.0 (134%) 53.0 64.2	8.8 (104%) 8.4 8.7	16.7 (97%) 17.3 16.3	41.5 (117%) 35.6 37.5	114.9 (138%) 83.4 103.9

- 注) ①平年：平成20年～29年の10か年の平均値。
 ②品種：平成20年は「ねぶたキャロ」、平成21～29年は「彩薈7」
 ③調査日：本年は6月11日現在。平年は6月10日、前年は6月9日。

（2）今後の農作業の留意点

葉の半数以上が地際部まで下がった頃に試し掘りを行い、M、L級を中心になつた頃に収穫する。

4 ばれいしょ

（1）生育状況

- ア 生育は順調で、草丈は平年を上回っている。
 イ 着蕾期は平年より5日早い5月25日、開花期は平年より4日早い6月7日となつた。
 ウ 病害虫は、ほとんど発生していない。

表－9 ばれいしょの生育状況

場所	年次	植付期 (月日)	萌芽期 (月日)	着蕾期 (月日)	開花期 (月日)	草丈 (cm)	茎数 (本)
三沢市 (三沢)	本年 (平年) 平年 前年	3/30 (9日早) 4/8 4/4	5/1 (4日早) 5/5 5/4	5/25 (5日早) 5/30 5/24	6/7 (4日早) 6/11 6/8	64.1 (104%) 61.4 75.1	2.1 (78%) 2.7 2.0

- 注) ①平年：平成18年～19年、平成21年～24年、平成26～29年の10か年の平均値。
 ②萌芽期の平年：平成21年～24年、平成26～29年の8か年の平均値。
 ③品種：メークイン
 ④調査日：本年は6月11日現在。平年は6月10日、前年は6月9日。

（2）今後の農作業の留意点

- ア 疫病の予防防除を徹底する。
 イ 早出し栽培（マルチ栽培）では6月下旬頃に試し掘りを行い、いもの肥大を確かめて収穫期を決める。また、収穫の5～7日前に茎葉を刈り取るなどして、いもの表皮のコルク化を進めてから収穫する。
 ウ 県内的一部でジャガイモリストセンチュウが発生したことがあるので、日中の葉の萎れや下葉の黄化等の症状を発見したら、指導機関に診断を依頼する。

5 ごぼう

(1) 生育状況

- ア は種作業が遅れたため、草丈、葉数は平年を下回っているが、生育はおおむね順調である。
- イ 病害虫は、ほとんど発生していない。

表－10 ごぼうの生育状況

場所	年次	は種期 (月日)	草丈 (cm)	葉数 (枚)
三沢市 (三沢)	本年 (平年) 平年 前年	5/4 (7日遅) 4/27 5/12	8.0 (75%) 10.6 5.8	1.3 (61%) 2.1 0.6

注) ①平年: 平成20～29年の10か年の平均値。
 ②品種: 柳川理想。
 ③調査日: 本年は6月11日現在。平年は6月10日、前年は6月9日。

(2) 今後の農作業の留意点

除草、病害虫防除を適期に行う。

6 メロン

(1) 生育状況

- ア トンネル栽培（5月上旬定植）では、主づる長は平年（過去4か年の平均）並、主づるの葉数は平年をやや下回っているが、生育はおおむね順調である。
- イ 着果節位の開花期となっており、開花は順調である。
- ウ 病害虫は、一部でハダニ類の発生が見られる。

表－11 メロンの生育状況

場所	年次	定植期 (月日)	主づる 長 (cm)	主づる の葉数 (枚)
つがる市 (木造)	本年 (平年) 平年 前年	5/6 (1日遅) 5/5 5/1	152.0 (96%) 159.0 135.1	19.5 (90%) 21.6 18.9

注) ①平年: 平成26年から担当農家を変更したため、平成26～29年の4か年の平均値。
 ②品種: タカミ(台木: ダブルガードパワー)
 ③調査日: 本年は6月11日現在。平年は6月10日、前年は6月9日。

(2) 今後の農作業の留意点

- ア トンネルの開閉をこまめに行うなど温度管理を徹底して生育の促進を図る。特に交配期に12°C以下の低温が続くと着果率が劣るので、最低気温15°C前後を目安に管理する。
- イ 交配はミツバチ等訪花昆虫を利用するか人工交配を行う。また、曇雨天が続く場合はホルモン処理を併用する。
- ウ アブラムシ類、アザミウマ類、ハダニ類の発生に注意し、適期に防除を行う。

7 ねぎ

(1) 生育状況

- ア 3月下旬定植の生育は、草丈、茎径が平年並である。
- イ 4月下旬定植の生育は、草丈、茎径が平年を上回っている。
- ウ 病害虫は、一部でハモグリバエ類やアザミウマ類の発生が見られる。

表－12 ねぎの生育状況

場所	年次	は種期 (月日)	定植期 (月日)	草丈 (cm)	茎径 (mm)
八戸市 (是川)	本年 (平年)	12/28 (18日早)	3/29 (2日遅)	71.8 (102%)	16.6 (106%)
	平年	1/15	3/27	70.6	15.6
	前年	12/27	3/25	73.1	17.9
十和田市 (羽立)	本年 (平年)	2/24 (7日遅)	4/23 (7日早)	45.8 (112%)	10.5 (122%)
	平年	2/17	4/30	40.8	8.6
	前年	1/25	4/25	41.3	7.0

注) ①平年：八戸市は平成15～29年の15か年の平均値。
十和田市は平成17～29年の13か年の平均値。
②品種：夏扇パワー
③調査日：本年は6月11日現在。平年は6月10日、前年は6月9日。

(2) 今後の農作業の留意点

- ア 草勢の維持に努め、生育に応じて培土や追肥を適期に行う。
- イ ベト病が発生しているほ場では、蔓延しないよう防除を徹底する。
- ウ ネギコガ、ネギアザミウマの発生に注意し、適期に防除を行う。

◎メロンやいちごなどの園芸作物で、花粉交配用ミツバチが確保できない場合には、各地域県民局地域農林水産部まで御相談ください。

◎ほ場を見回るなど農作物の盗難防止に努めましょう。

◎決め手は土づくり！ 日本一健康な土づくり運動展開中！
ほ場の準備に当たっては、土壤診断に基づいた土づくりに努めましょう。

◎農薬の使用に当たって、

農薬は適正に使用しましょう。

農薬の飛散を防止しましょう。

農薬は使い切り、河川等へ絶対捨てないようにしましょう。

クロルピクリン剤など土壤くん蒸剤を使用する際は、必ずポリエチレンフィルム等(厚さ0.03mm以上または難透過性の資材)で被覆してください。

農薬を使用する場合には、必ず最新の農薬登録内容を確認してください。

農薬情報(http://www.maff.go.jp/j/nouyaku/n_info/)

農薬登録情報提供システム

【詳細検索】(<http://www.acis.famic.go.jp/search/vt11p301.jsp>)

【作物名検索】(<http://www.acis.famic.go.jp/search/vt11p101.jsp>)

◎農業保険（農業共済及び収入保険）への加入について～

1 農業共済

「農業共済」は、自然災害等により農作物・家畜・園芸施設に損害が生じた場合に共済金が支払われる制度です。

2 農業経営収入保険

平成31年から新たに始まる「農業経営収入保険」は、農業者が自ら生産した農産物の販売収入全体を対象とし、自然災害に加え、価格低下などにより収入が一定割合以上減少した場合に補填金が支払われる制度です。

加入には、青色申告が条件となっており、平成31年分の申請は、30年10月から11月となっています。

※詳しくは、地域の農業共済組合にお問い合わせください。

連絡先 農産園芸課野菜・畑作物振興グループ
県庁内線 5077
直通 017-734-9485
